硬膜外ブロック（胸部、腰部、仙骨）説明書

《目的》

背椎の中の硬膜外腔に局所麻酔薬（痛み止め）を注射します。
一定の範囲の神経を麻痺させ、痛みなど症状の軽減を図り、また障害されている神経の特定を行います。

《治療前》

- 初回時は血液検査を行います。
- 治療後に安静時間が必要です。トイレを済ませておいて下さい。

《治療時》

- 横向きになり、できるだけ背中を丸くします。皮膚を消毒した後、穿刺部の局所麻酔を行います。
- 専用のブロック針を用い、背椎の隙間をすり抜ける様に硬膜外腔に針を進めます。
- 場合により、レントゲン透視下に背椎の隙間を確認しながら行います。その際はうつ伏せで行います。
- 神経にピリっとひびくことがありますが、なるべく動かずお声でお知らせ下さい。
- 局所麻酔薬と必要に応じ炎症を抑える薬（少量のステロイド薬など）を注射します。

《治療後》

- 処置後は 1 時間程度、そのまま処置台で休んでいただきます。血圧測定を何度か行います。
- 寝返りや起立はお控え下さい。また、感染予防のため当日のご入浴はお控え下さい。
- ご自身での車や自転車の運転はお控え下さい。

《治療後の反応》

- 注射した場所に応じて、胸や背中、足がしばらく(時間は人によって異なります)しびれます。

《合併症》合併症はまれですが、主に以下のものがあります。

- くも膜下ブロック：足が全く動かなくなったり感覚が麻痺したりしますが、数時間で元に戻ります。
  胸椎の場合は呼吸困難になることがあります。直ちに気道確保など処置が必要になります。
- 神経穿刺：極まれにしびれや痛みが続くことがあります。
- 血腫：極まれに硬膜外腔に血腫が生じ、神経を圧迫することで手や足が麻痺することがあります。
- 感染：極まれに硬膜外膿瘍を生じ、神経が麻痺することがあります。場合により外科処置が必要となります。
- アレルギー：極まれに薬剤に対するアレルギーが生じることがあります。
  アナフィラキシー症状の場合、直ちに処置を必要とします。

《同意の撤回》硬膜外ブロックの同意を撤回する場合

いったん同意書を提出しても、硬膜外ブロックを行うまで治療を受けることを止めることができます。
その際は、ご遠慮なくその旨をクリニックまでご連絡下さい。

※帰宅後に、もし気分が悪くなったり、痛みやしびれが続いて心配なことがありましたら、
いつでもクリニックまでご相談下さい。

おち内科・ペインクリニック
☎ 089-960-1218